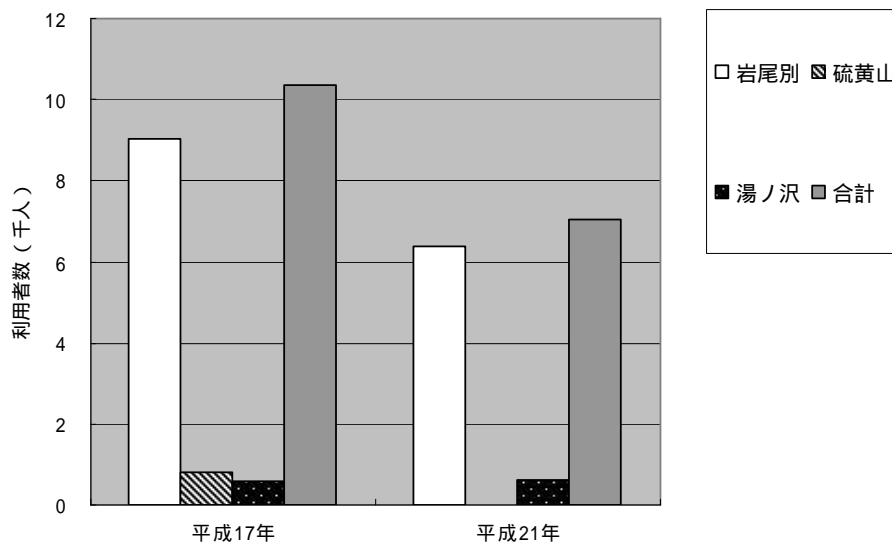


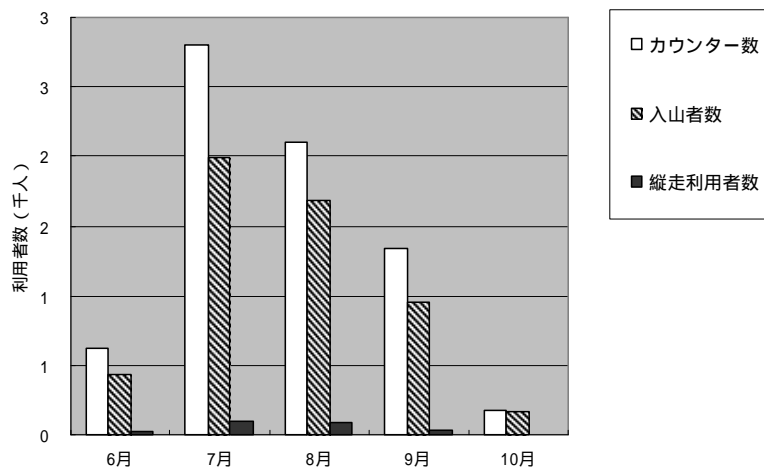
知床連山地区における課題と対策

1. 利用状況

- ・ 知床連山への登山口としては、ウトロ側に岩尾別登山口及び硫黄山登山口、羅臼側に羅臼温泉登山口がある。しかし、硫黄山登山口は平成18年以降、道道知床公園線の通行止めにより利用が出来なくなっている。
- ・ 登山利用は岩尾別登山口からの利用が9割近くをしめる。(平成21年)
- ・ 利用者数は、平成21年において約7,000人/年となっており、7月から8月にかけて利用のピークとなっている。(平成17年:約10,000人/年 30%減少 カウンターデータによる)
- ・ 平成21年度の登山利用者のうち、縦走利用者は入山者数の約5%(約238人/年 入山簿データによる 平成17年比 777人/年 70%減少)となっており、大多数は羅臼岳の日帰り登山利用となっている。
- ・ 岩尾別、羅臼温泉両登山口にて携帯トイレの回収が実施されているが、山中に携帯トイレボックスなどは設置されていない。
- ・ 野営指定地(羅臼平、三ツ峰、二ツ池、第一火口)にはヒグマ対策の為にフードロッカーが設置されている。

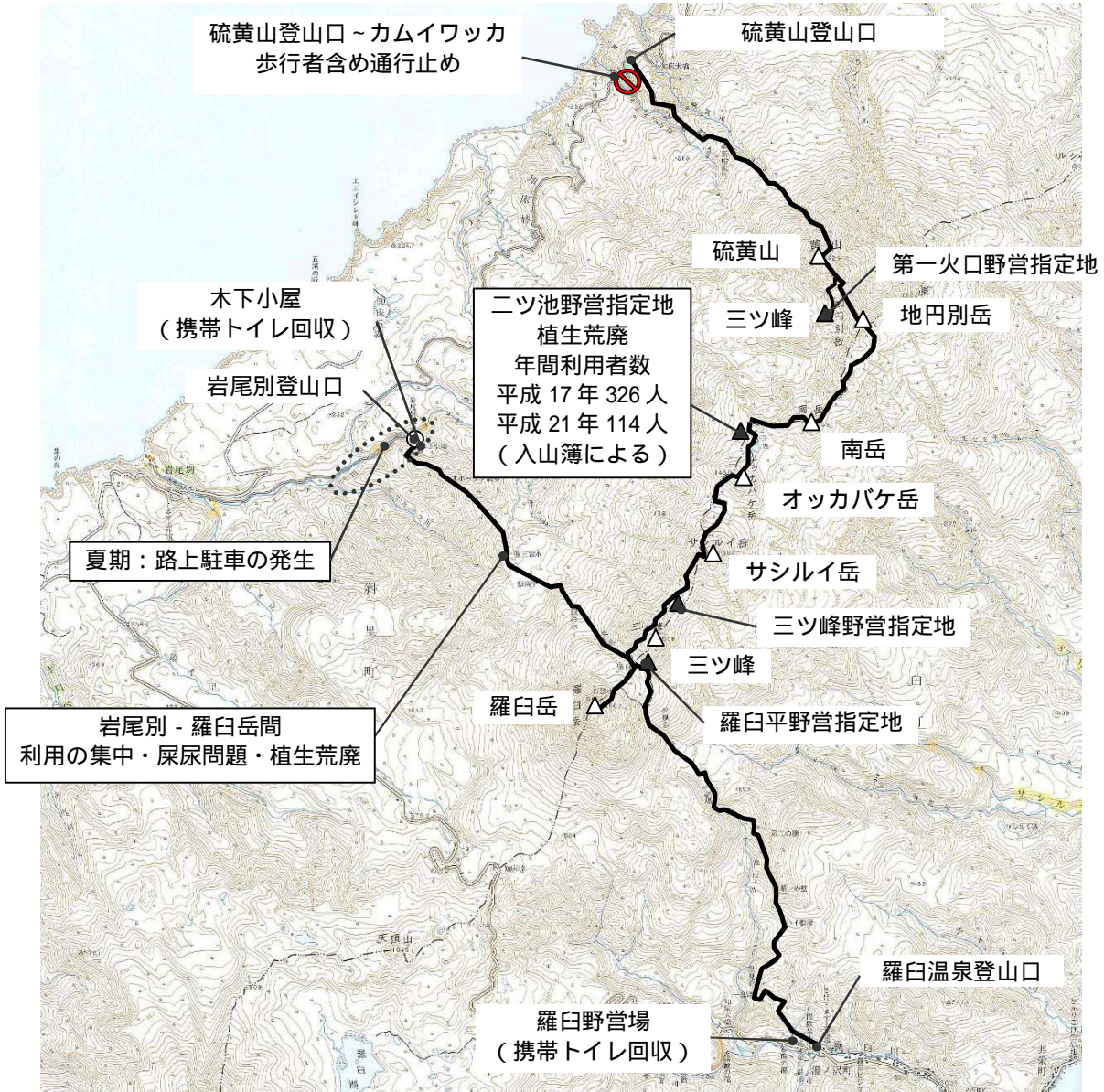


図：知床連山地区の登山口別利用者数 (カウンターデータ)



図：平成21年の知床連山地区の月別利用者数 (カウンターデータおよび入山簿)

カウンター数はカウンターデータ、入山数と縦走利用者数は入山簿による。



図：知床連山地区概況図

2. 課題

利用者の増加等による自然体験の質の低下

- ・ 岩尾別 - 羅臼岳間において、利用者の集中が見られる。
- ・ 携帯トイレの利用率が低く、岩尾別 - 羅臼岳間を中心に、尿尿処理の問題が顕在化している。
- ・ 夏期ピーク時には岩尾別温泉道路上において路上駐車が見られる。
- ・ 硫黄山登山口が閉鎖されているため、縦走利用ができない。

利用者の増加による自然環境への影響

- ・ 登山道の荒廃・複線化、周辺植生の荒廃、野営地の裸地化が懸念される。特に大沢や二ツ池周辺の影響が顕著である。

3. 対策

課題 利用者の増加による自然体験の質の低下

対策：携帯トイレの普及促進対策

携帯トイレブース設置検討

チラシ等による普及啓発の継続

課題 利用者の増加による自然環境への影響

対策 1：適切な登山道の整備・維持管理の実施

日常的な補修・巡視

登山道の整備

対策 2：二ツ池の植生調査の実施・対策の検討

ルートの付け替えや補修・整備、野営指定地の明確化等の検討

4. 参考資料（平成 17 年度策定 知床半島中央部地区利用適正化基本計画）

	エリア名	現状のタイプ	理想のタイプ	基本的方向性
1	岩尾別温泉～羅臼岳	B -	B -	□ - 1
<p>登山利用の想定</p> <p>連山登山道のうち最も利用されているルートである。利用者は、登山経験があり、必要な装備の判断ができ、自らの経験・技術に合わせて、知床の自然景観を楽しむことや、羅臼岳登頂の満足感・達成感を得ることを目的とした登山者（中級、中級以上の指導者が同伴する初級者）の利用を想定する。</p> <p>維持・補修</p> <p>既存施設の破損箇所等の修復、登山道の浸食等の発生・拡大を防ぐための修復整備及び登山道沿線の植生保護のための立入防止ロープ柵の設置等の維持管理を行う。</p> <p>巡視等</p> <p>登山シーズンには定期的な巡視を行い、現況の把握と利用適正化に関する普及・啓発を行うとともに、施設や登山道の破損等を把握し、必要な対策を講じる。</p>				
	エリア名	現状のタイプ	理想のタイプ	基本的方向性
2	羅臼温泉～羅臼岳	B -	B -	イ - 3
<p>登山利用の想定</p> <p>1のルートに比べ、行程が長く利用度が低いルートであることから、十分な体力と登山経験があり、必要な装備等の判断ができ、自らの経験・技術に合わせて、知床の原始的な雰囲気を体験し、羅臼岳登頂の満足感・達成感を得ることを目的とした登山者（中級以上）の利用を想定する。岩尾別コースへの利用集中の緩和のために、本コースの利用を推奨する。</p> <p>維持・補修</p> <p>登山道沿線の植生保護のための措置及び登山道の浸食等の発生・拡大を防ぐための最小限の修復整備を行う。</p> <p>巡視等</p> <p>特に残雪期をはじめ登山シーズン前後に定期的な巡視を行い、現況の把握と利用適正化に関する普及・啓発を行う。また、登山者からの情報提供による危険箇所の情報収集等により、関係機関と連携して必要な対策を講じる。特に残雪期においては、関係機関と連携して誘導ロープ柵の設置等必要な対策を講じる。</p>				

			理想のタイプ	基本的方向性
3	カムイワッカ～硫黄山	B -	B -	イ - 1
<p>登山利用の想定</p> <p>1のルートに比べて利用度は低いルートであることから、登山経験があり、必要な装備等の判断ができ、自らの経験・技術に合わせて、知床の原始的な雰囲気を経験し、硫黄山登頂の満足感・達成感を得ることを目的とした登山者（中級以上）の利用を想定する。</p> <p>維持補修</p> <p>登山道沿線の植生保護のための措置及び登山道の浸食等の発生・拡大を防ぐため、最小限の修復整備を行う。</p> <p>巡視等</p> <p>登山シーズンには定期的な巡視を行い、現況の把握と利用適正化に関する普及・啓発を行う。また、登山者からの情報提供による危険箇所の情報収集等により関係機関と連携して必要な対策を講じる。</p>				

	エリア名	現状のタイプ	理想のタイプ	基本的方向性
4	知床連山縦走線	B -	B -	イ - 2
<p>登山利用の想定</p> <p>行程が長く時間と体力を要するコースで、必要な経験と技術を持ち、ワイルドで静寂な雰囲気の登山体験を目的とした登山者（上級）の利用を想定する。</p> <p>維持補修</p> <p>登山道沿線の植生保護のための措置及び登山道の浸食等の発生・拡大を防ぐため、最小限の修復整備を行う。二つ池周辺については、登山道の荒廃や野営地の裸地拡大防止のために、ルートや野営指定地の変更も検討する。</p> <p>巡視等</p> <p>登山シーズンには定期的な巡視を行い、現況の把握と利用適正化に関する普及・啓発を行う。また、登山者からの情報提供による危険箇所の情報収集等により関係機関と連携して必要な対策を講じる。</p> <p>ヒグマ対策</p> <p>既に設置しているフードロッカーについては、今後も維持・管理を継続し、損傷や老朽化が進んだフードロッカーは、必要に応じ更新する。</p>				

本資料は、環境省釧路自然環境事務所殿の許可・承諾を得て、インターネットサイト「知床データセンター」に掲載の会議資料より転載したものである。